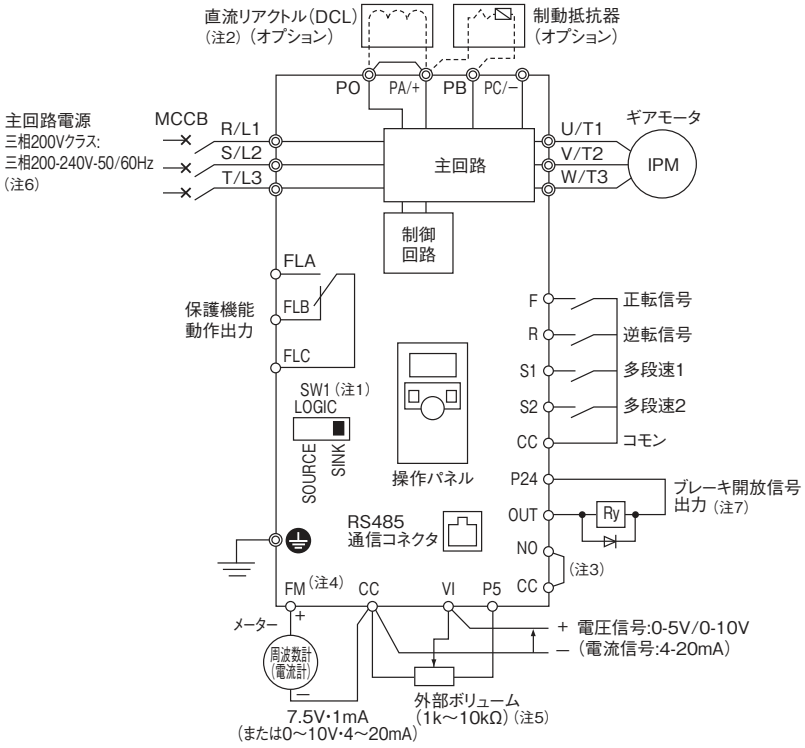
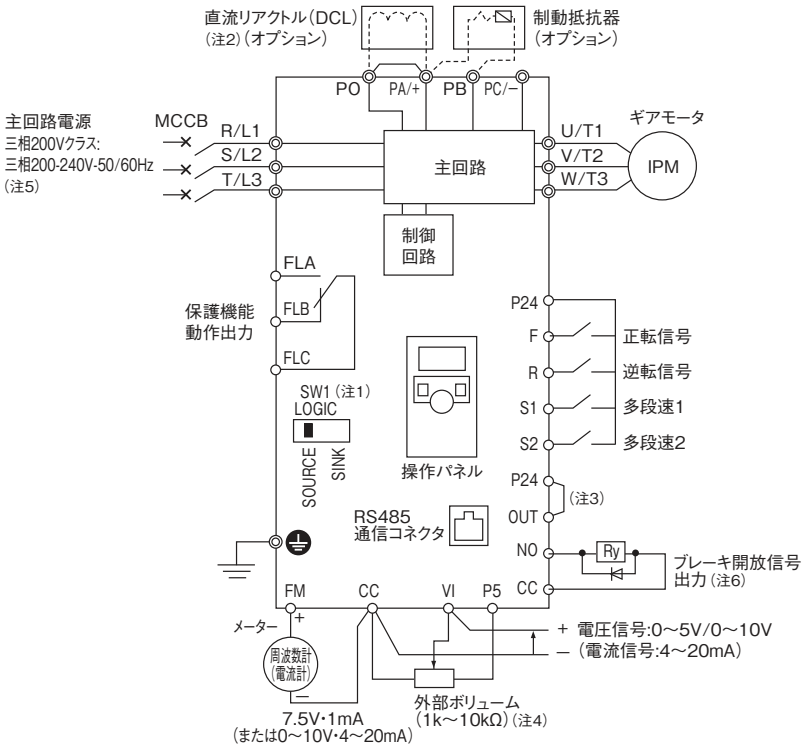
標準接続図

■シンク(コモン:CC)側での接続例



注1. スライドスイッチSW1(LOGIC)をSINK側に設定してください。
注2. 出荷時、PO-PA/+端子間はバーで短絡されています。直流リアクトル(DCL)を取り付ける場合には、バーを取り外してください。
注3. 出力端子OUTをシンクロジックで使用する場合、端子NO-端子CC間を短絡してください。
注4. FM端子を接点出力端子として使用する場合には、スライドスイッチSW3(FM)をOUT2側に設定してください。
注5. P5端子を使用して、外部ボリュームを接続する場合には、パラメータ**F109**=3に設定してください。
注6. IPMギアモータの電源電圧定格は200〜230Vです。240Vでのご使用はお問合せください。
注7. ブレーキ開放信号は、パラメータ**F341**『ブレーキ機能モード』=3(有効)にした場合に出力されるようになります。

■ソース(コモン:P24)側での接続例



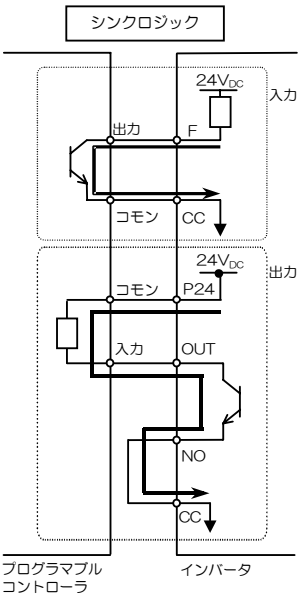
注1. スライドスイッチSW1(LOGIC)をSOURCE側に設定してください。
注2. 出荷時、PO-PA/+端子間はバーで短絡されています。直流リアクトル(DCL)を取り付ける場合には、バーを取り外してください。
注3. 出力端子NOをソースロジックで使用する場合、端子P24-端子OUT間を短絡してください。
注4. P5端子を使用して、外部ボリュームを接続する場合には、パラメータ**F109**=3に設定してください。
注5. IPMギアモータの電源電圧定格は200〜230Vです。240Vでのご使用はお問合せください。
注6. ブレーキ開放信号は、パラメータ**F341**『ブレーキ機能モード』=3(有効)にした場合に出力されるようになります。

■シンク／ソースロジック（インバータ内部電源を使用する場合）

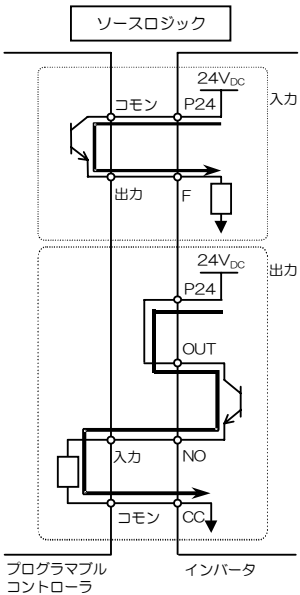
通常制御入力端子は、電流が流れ出ることによってONとなります。これをシンクロジックといいます。
一方、欧州などでは、入力端子に電流が流れ込むことにより、ONとなるソースロジックが一般的です。
シンクロジックのことをマイナスコモン、ソースロジックのことをプラスコモンとも言います。
また、ロジック用の電源として、インバータ内部電源を使用する場合と外部電源を使用する場合があり、それぞれ接続が異なります。
シンク/ソースロジックを切り換える場合、スライドスイッチSW1（LOGIC）およびパラメータ F 127 の設定にて行います。

＜インバータ内部電源を使用する場合の接続例＞

スライドスイッチSW1：ＳＩＮＫ側
パラメータ F 127=0



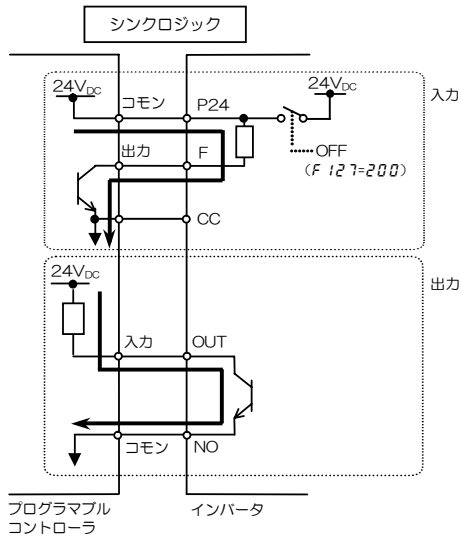
スライドスイッチSW1：SOURCE側
パラメータ F 127= 100



■シンクロジック（外部電源を使用する場合）

シンクロジックにて外部電源を使用したい場合、または他の入力端子や出力端子と分離したい場合には、端子 P24 を使用します。

＜外部電源を使用する場合の接続例＞

スライドスイッチSW1 ：ＳＩＮＫ側

パラメータ F 127=200